

令和 5 年 2 月 7 日

第 1 回博士論文審査委員会
開催報告

1. 委員会の開催日時

令和 5 年 2 月 7 日(水)午前 10 時 30 分～午前 10 時 50 分(於：3 号館環境センター)

2. 審査申請者

大学院環境マネジメント研究科博士後期課程 島宗 俊郎

3. 論文題目

観光地域づくり法人による着地型観光の海外プロモーションに関する研究～台湾の観光関連組織との関係性に着目して

4. 審査委員会

主査：	名古屋産業大学大学院教授	博士(工学)	伊藤 雅一
副査：	同上	博士(工学)	岡村 聖
副査：	同上	博士(工学)	矢野 昌彦
副査：	同上	准教授	博士(芸術工学) 長谷川 泰洋

5. 審議内容

1) 主査の選任について

委員会の開催に先立って、「名古屋産業大学博士(環境マネジメント)学位授与に関する取扱要項」第 13 条第 3 項の規定に基づき、伊藤雅一教授を主査に互選した。

2) 課程博士の学位申請基準について

申請者が博士後期課程在学中に学会発表した文献リストに基づき、学会発表の投稿規程及び論文誌への掲載を確認し、一般社団法人環境情報科学センターの「環境情報科学学術研究論文集」の査読付き研究論文 3 編は、「課程博士の学位申請基準についての研究科委員会申合せ」の基準を満たしていることを確認した。

3) 第 2 回審査委員会について

第 2 回審査委員会は、外部審査委員(三重大学・浅野聡教授)を含め、令和 5 年 2 月 18 日(土)の公聴会終了後に実施することを決定した。

以上

記録：主査 伊藤雅一

令和 5 年 2 月 18 日

第 2 回博士論文審査委員会
開催報告

1. 委員会の開催日時

令和 5 年 2 月 18 日(土)午後 3 時 5 分～午後 3 時 40 分(於：3 号館環境センター)

2. 審査申請者

大学院環境マネジメント研究科博士後期課程 島宗 俊郎

3. 論文題目

観光地域づくり法人による着地型観光の海外プロモーションに関する研究～台湾の観光関連組織との関係性に着目して

4. 審査委員会

主査：	名古屋産業大学大学院教授	博士(工学)	伊藤 雅一
副査：	三重大学大学院工学研究科教授	博士(工学)	浅野 聡
副査：	名古屋産業大学大学院教授	博士(工学)	岡村 聖
副査：	同上	博士(工学)	矢野 昌彦
副査：	同上 准教授	博士(芸術工学)	長谷川 泰洋

5. 審議内容

1) 審議の事前確認について

委員会の開催に先立って、第 1 回委員会での以下の決定事項について改めて確認を行った。

- ・「名古屋産業大学博士(環境マネジメント)学位授与に関する取扱要項」第 13 条第 3 項の規定に基づき、伊藤雅一教授を主査に互選した件
- ・申請者が博士後期課程在学中に発表した論文誌の投稿規程及び掲載(3 編)を確認し、「課程博士の学位申請基準についての研究科委員会申合せ」の基準を満たしている件

2) 審査結果について

提出された論文の審査並びに公聴会における最終試験の結果について審査し、「合格」と判定するとともに、審査結果をまとめた論文審査結果の要旨について審議し確定した。

以上

記録：主査 伊藤雅一

論文審査結果の要旨

2015 年の日本版 DMO 登録制度創設に伴い、全国各地において、着地型観光の担い手となる観光地域づくり法人（DMO）が設立されている。その設立目的は、多様な関係者と協同して観光地域マネジメントを担うことにある。

近年、観光庁では、持続可能な観光(サステナブルツーリズム) への世界的関心の高まりを背景に、地域の自然や歴史文化などを観光資源として活用し、同時に経済・社会・環境の正の循環により観光資源の持続可能性や価値を高める仕組みづくりを支援している。つまり、着地型観光の振興は、誘客という経済的側面だけでなく、観光資源の持続可能性や価値を高めるための社会的、環境的側面が重視されている。環境省では、エコツーリズム推進法に基づいて、エコツーリズム推進基本方針を定め、生物多様性の保全と観光地の活性化の両立を支援している。

本論文では、観光の目的地、すなわち着地側で開発されるエコツーリズム、グリーンツーリズム等のニューツーリズムを着地型観光と定義し、台湾からの訪日着地型観光を事例に取り上げ、発地側、着地側の双方から観光関連組織間の連携実態を検証したうえで、DMO による海外プロモーションの展開パターンとその特徴を明らかにしている。その際、本論文が調査対象とする 2019 年時点の台湾からの訪日外国人観光客は、中国、韓国に次いで多いが、中国、韓国と比べて旅行形態（個人旅行、団体旅行）の偏りが相対的に小さい点に着目し、台湾を研究対象とすることで、訪日着地型観光の多様なニーズとこれに対応した海外プロモーション活動の多様な展開について検証することを企図している。

本論文は、以下の 6 章によって構成される。

第 1 章の「はじめに」では、論題に関係のある着地型観光に関する研究、DMO による観光マネジメントに関する研究の動向をサーベイしたうえで、研究の目的と構成を明らかにしている。

第 2 章の「インバウンド着地型観光の動向」では、日本国内における着地型観光の市場動向、着地型観光の担い手となる DMO の動向を把握するとともに、長野県阿智村を事例に、インバウンド着地型観光のニーズと受入状況の実態から観光実務上の課題を明らかにした。

第 3 章の「訪日着地型観光ニーズを形作る観光関連組織間の連携」では、「台北市旅行商業同業公會」の協力を得て、台湾の旅行業者を対象としたアンケート調査を実施し、台湾の旅行業者からみた訪日着地型観光ニーズとこれらを形作る観光関連組織の連携を明らかにした。

第 4 章の「観光地域づくり法人による海外プロモーションの展開パターン」では、日本国内の DMO を対象にアンケート調査を実施し、台湾からの訪日着地型観光を対象に、DMO による海外プロモーションの展開パターンを明らかにした。

第 5 章の「観光地域づくり法人による海外プロモーション活動の展開とその特徴」では、

台湾をターゲット層とする「観光地域づくり法人形成・確立計画」を対象に、DMO の海外プロモーション活動に関する記述内容の共起ネットワーク分析を行い、台湾からの誘客に成功した DMO による海外プロモーション活動の展開とその特徴を明らかにした。

第 6 章の「結論と今後の展望」では、結論の総括を行い、その学術的な貢献と今後の展望を明らかにした。

以上のように、本論文は、台湾の旅行業者と日本国内の DMO を対象としたアンケート調査を通じて、台湾からの訪日着地型観光を形作る観光関連組織の連携実態を把握したうえで、台湾からの誘客に成功した DMO を抽出し、既往研究では明らかにされてこなかった DMO による海外プロモーション活動を検証している。これらの研究成果は、インバウンド着地型観光の振興に寄与し、DMO による観光地域づくりとして、観光資源の持続可能性を高める環境マネジメントの新たな展開に繋がっていくことが期待できる。

よって本論文は、博士(環境マネジメント)の学位請求論文として合格と認められる。

博士論文審査の結果及び最終試験の結果

審査申請者：名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科博士後期課程 島宗 俊郎

論文論題：観光地域づくり法人による着地型観光の海外プロモーションに関する研究
～台湾の観光関連組織との関係性に着目して

審査委員会	合否判定欄
主査 伊藤 雅一 教授  印又は署名	合格
副査 浅野 聡 教授  印又は署名	合格
副査 岡村 聖 教授  印又は署名	合格
副査 矢野 昌彦 教授  印又は署名	合格
副査 長谷川泰洋 准教授  印又は署名	合格